

令和3年度 学校経営計画

富山県立高岡聴覚総合支援学校

1 学校教育目標

障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力や態度を養い、社会的に自立できる人間を育成する。

<校訓> 明朗 誠実 敬愛

2 学校の特徴

本校には、聴覚障害のある幼児児童生徒が在籍し、社会自立を目指して、幼稚部から高等部までの一貫した教育を行っている。高等部においては、平成22年度に軽度知的障害生徒を対象とした福祉・サービス科を設置し、聴覚障害の生徒と軽度の知的障害の生徒が共に学び、地域社会で生きる力を育てている。

また、聴覚障害教育センターを併設し、特別支援教育のセンター的役割を担い、聴覚障害の早期発見・早期教育、あらゆる年齢層の相談に応じ地域に開かれた教育相談支援を目指して活動を行っている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

本校には、聴覚障害のある幼児児童生徒に加え、高等部に軽度知的障害のある生徒が在籍している。それぞれの障害の特性から、日本語の習得やコミュニケーション等において様々な困難を伴ったり、言語等の理解や適応行動の難しさから社会参加や自立に多くの課題を伴ったりする。

また、あふれる情報、価値観の多様化等、日々変化し続けている社会の中で、本校の幼児児童生徒の将来の自立を見据えたとき、課題に直面しそれを解決する過程で必要とされる思考力、判断力、表現力等の「生きる力」を育てることが非常に重要となってくる。

(2) 課題

- ア 障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実
- イ 聴覚障害教育、知的障害教育についての専門的知識と指導力の向上
- ウ 地域に開かれた学校としての教育活動の推進
- エ 健康で安全な学校づくりのための人的、物的環境の整備
- オ 組織的・計画的な学校経営の推進

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	学 習	幼稚部	目標 ・コミュニケーションの意欲を高め、言葉による伝え合い、思考、表現ができる基礎能力を養う。
			計画 ・コミュニケーションの意欲を高めるために心を動かす体験等の活動を設定し環境の整備を行う。 ・写真、絵、文字、キューサイン、手話などの有効な手段を十分活用する。
		小学部	目標 ・友達の前で自分の経験や考えを伝え合い、表現力、思考力を高める。
			計画 ・毎週の集会時において、一人の児童が友達の前でミニスピーチをする。 ・友達の発表を聞いて質問をし、それに答えるなどのやり取りをする。
	中・高等部	目標 学習に対する積極的な態度を養い、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	
		計画 ・学習環境を整え、主体的に学ぶ態度を育む。 ・学習と部活動を両立させ、毎日の家庭学習の時間を確実に確保する。	
	重点1 高等部	目標 ・能力適性に基づく堅実な職業観を育成し、進路に必要な学力や技能が身に付くようにする。 ・地域社会に対する理解を深め、主体的に社会参加する力を育成する。	
		計画 ・地域と連携した学習活動を通し、卒業後の就労に必要な実践的な技能や態度を養う。 ・活動の事後に振り返りを行って評価をし、次の学習に生かせるようにする。	
2	学校生活	目標 ・健康の保持増進を図るために必要な、基本的知識と実践力が身に付くようにする。	
		計画 ・健康診断の事後指導等を通して、歯と口の健康づくりのためのよりよい習慣を育てる。 ・学校医や関係機関、保護者等と連携を図りながら、感染症対策に努めるとともに自ら健康に気を付けて生活する力を育てる。	
		目標 ・緊急時の対応力を高めるためのマニュアルを作成し、実践的な訓練を実施する。	
		計画 ・緊急時の対応におけるマニュアル（不審者対応、避難訓練）を見直す。 ・緊急時の対応について職員の研修会を1回以上実施し、周知を図る。	
3	進路支援	目標 ・進路支援体制の充実を図るため、関係機関と連携した進路支援に取り組む。	
		計画 ・就業体験やインターンシップ先の開拓を行うとともに、本校の生徒の実態について説明する機会を増やす。 ・アフターケアを充実し、卒業生の職場定着を図る。	
4	特別活動	目標 ・全校の交流を通して、心身の健全な発達と学校生活の充実を図る。	
		計画 ・全校幼児児童生徒で行うレクリエーションを1回以上実施する。 ・校内での手紙や年賀状の交換による交流を行う。	

5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">重点2</div> その他	目 標	・教員の専門性の向上を図る。
		計 画	・教育現場のニーズに応じた校内研修の計画・実施。 ・オンラインによる外部研修への参加の奨励。
		目 標	・ <u>保護者と連携し、PTA活動の活性化に取り組む。</u>
		計 画	・保護者が主体的に活動できるようPTA活動の見直しと再編を行う。
		目 標	・幼児児童生徒のニーズの把握に努め、必要な支援を検討する。
		計 画	・特別支援教育コーディネーターが窓口となり、学部間の連携を図る。
		目 標	・ICT環境を整備するとともに、教員のスキルアップを図る。
		計 画	・外部講師の活用や校内研修を充実させる。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和3年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動 一中・高等部一
重点課題	新聞に親しみ、言葉の力を伸ばす
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒は、普段から他の人の意見を聞く機会が少なく、自分の意見を伝える場面も限られている。 ・日常生活では、新聞を読む習慣が身に付いていないため、社会の出来事に関心をもつことが難しかったり、自分なりの解釈による勘違いがあったりする。
達成目標	新聞記事発表会の実施回数
	年3回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週、生徒の実態や興味・関心を元に社会情勢がわかる新聞記事を選び、「今週の出来事」として廊下掲示し、関連した課題プリントに生徒が取り組むことで、社会の出来事に関心をもつ機会を設ける。 ・課題プリントを利用して新聞記事のまとめや感想を言う、関連した言葉探しをする、などのクラス活動を月に1回程度設定する。 ・学期に1回、生徒が選んだ新聞記事発表会を実施する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和3年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	その他 一進路指導・総務部一
重点課題	保護者が充実感のもてるPTA活動の推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒数の減少に伴い、PTA活動に参加する保護者が少なくなっている。 ・コロナ禍のため、PTA活動が設定しにくく、保護者の研修の場や交流の機会が減ってきている。令和2年度は、PTA親子活動を1回のみ実施した。 ・本校は、幼稚部から高等部まで幅広い年齢層が在籍している上に、高等部には、軽度知的障害を有する生徒が在籍しており、保護者のニーズが多様である。
達成目標	保護者のニーズに応じたPTA活動（親子活動等）の実施回数
	年2回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が参加しやすいように、学習参観日に合わせてPTA活動を実施する。 ・親子活動等について、他の分掌や各学部主任と連携し、幼児児童生徒の実態に即した内容を企画する。また、保護者にPTA活動の内容について、アンケート調査を行い、企画に生かす。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）